

# 5年 地球探究

## 学習目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に学び、現代世界の諸地域を歴史的背景も踏まえて地誌的に考察することによって、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培う。

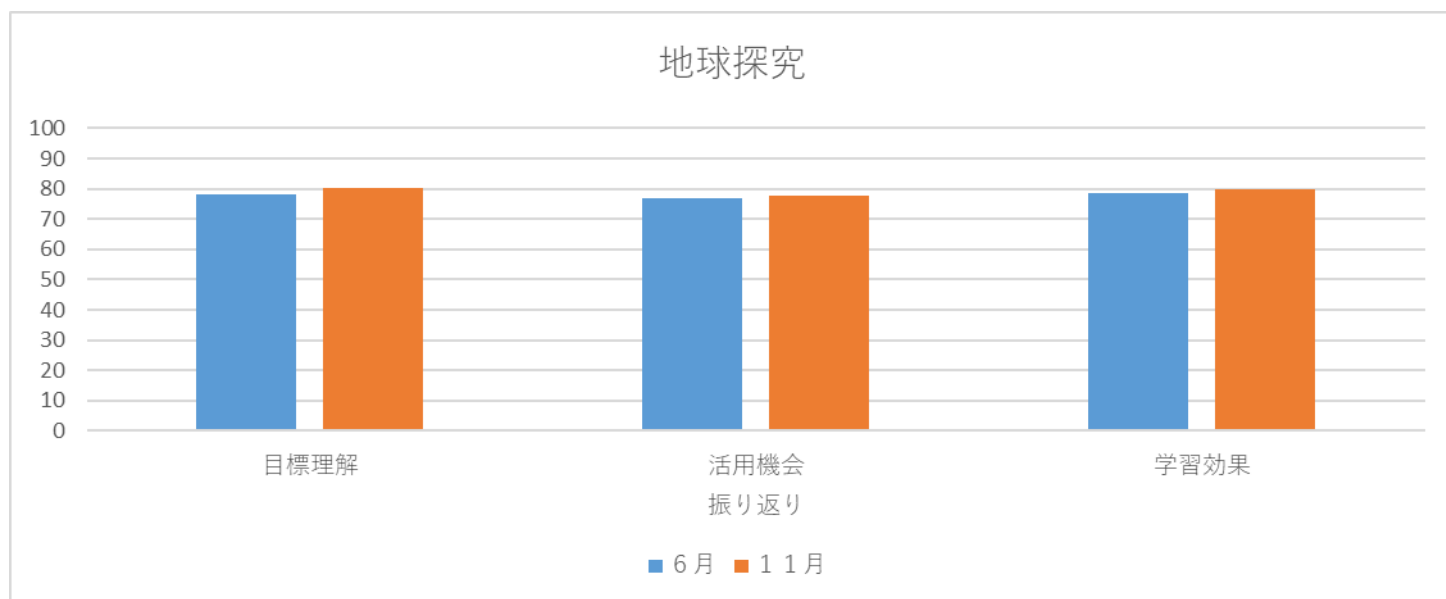
人間が、過去に行ってきたこと、現在行っていることと自然環境とのかかわりについて探究する姿勢を身につける。

## 学習内容

	具体的な学習到達目標	学習内容／教材	特記事項・他
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>規模や形成要因の違う様々な地形を取り上げて、その分布や形成要因などの基礎的知識や概念を習得する。</li> <li>気温、降水量、大気大循環、海洋や水の循環を取り上げ、それぞれの地域の気候がかたちづくられた要因を考察し、理解する。</li> <li>地形や気候と密接な関連を持つ第一次産業について学習し、人間の活動に自然環境がどのような影響を及ぼしているかを理解する。</li> <li>地球上の位置と国家について学び、グローバル化が進んでいることを理解する。</li> <li>期末考査後に、調べ学習のテーマを各自（二人一組）で設定する。</li> </ul>	《学習内容》 <ul style="list-style-type: none"> <li>自然環境</li> <li>第一次産業</li> <li>地球上の位置</li> <li>国家とグローバル化</li> </ul> 《教材》 <ul style="list-style-type: none"> <li>プリント</li> <li>資料集</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>プレートテクトニクスや大気の大循環については、地学の内容を採り入れて学習する。</li> <li>どうやったら2点間の距離を求めることができるか、経度から時差を求めるにはどうしたらよいか、を学習する。</li> </ul>	
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>諸地域の生活文化や地球的課題について、最低限必要な知識を習得し、資料集にも載っていない最新の情報にも、さまざまな媒体を介して接しようとする態度を身につける。</li> <li>自分の考えをまとめ、わかりやすく発表するために、機材を使用したプレゼンテーションの技法を学ぶ。</li> </ul>	《学習内容》 <ul style="list-style-type: none"> <li>世界の諸地域の生活文化</li> <li>複雑にからみ合う地球的課題</li> </ul> 《教材》 <ul style="list-style-type: none"> <li>プリント</li> <li>資料集</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>2学期は二人一組の発表形式の授業を20時間組み込むことを考えており、最低限身につけてもらいたい知識に関しては講義形式の学習で扱った。</li> </ul>	
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年自然災害による被害が発生している日本の防災について学び、どうやって自分の身を守るか考える姿勢を身につける。</li> <li>さまざまな時代の世界地図の読図により地球に関する認識の違いに気づき、人々の世界観の変化を理解する。</li> <li>使用目的に応じて図法の異なる世界地図を使うことを理解する。</li> <li>地図を用いた地域調査の技法について学ぶ。</li> </ul>	《学習内容》 <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の自然環境と防災</li> <li>地理情報と地図</li> <li>地図と地域調査</li> </ul> 《教材》 <ul style="list-style-type: none"> <li>プリント</li> <li>資料集</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>GIS(地理情報システム)を利用してデータを地図上に表示する技術について学習した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月17日、3月11日と大きな震災を引き起こした地震が起きた日が含まれる期間であり、マスコミでも防災について取り上げられることが多くなる。その内容も授業に採り入れた。</li> <li>前期課程の地域調査で使用した地図や発表に使用した地図を持っている生徒がいる場合には、その地図を持ってきてもらい、どういう目的で使用したのかを確認した。</li> </ul>

## 生徒による授業評価

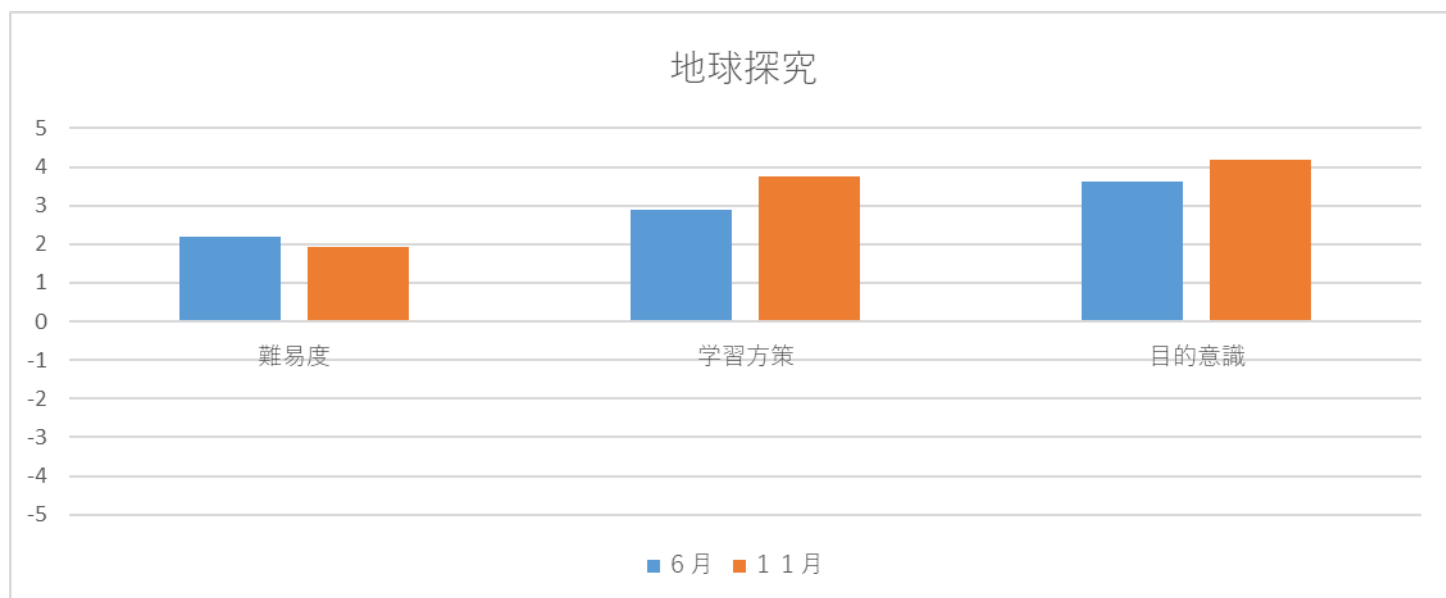
6月と11月に実施した生徒による授業評価の結果は以下の通りである。授業を通して、身の回りの事柄についての学び方、探究の仕方について身についたと感じる生徒が授業を受けることで増加していることがわかる。



※目標理解は「学習目標や授業への取り組み方ははっきり示されているか」という質問に対して「非常によく当てはまる（5ポイント）」から「当てはまらない（1ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※活用機会は「習ったことをもとに考える機会が、課題などで整っているか」という質問に対して「非常によく当てはまる（5ポイント）」から「当てはまらない（1ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※学習効果は「授業を通し、学力や技能の向上、自分の進歩が実感できるか」という質問に対して「非常によく当てはまる（5ポイント）」から「当てはまらない（1ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。



※難易度は「授業内容や課題の難易度はあなたにとって」という質問に対して「難しすぎる（10ポイント）」から「易しすぎる（-10ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※学習方策は「この科目の学び方や取り組み方が身についたと思うか」という質問に対して「とてもそう思う（10ポイント）」から「まったくない（-10ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。

※目的意識は「自分なりの課題や目的を持って日々の授業に臨んでいるか」という質問に対して「とてもそう思う（10ポイント）」から「まったくない（-10ポイント）」までを5段階で評価し、数値化したものである。